

# 「アマテラスオオカミ 岩戸隠れ」



記憶の過去  
岩戸隠れ

## 子どもと親の神話 子どもと親の拍手塾 カムスホール

お姉様のアマテラスは、弟のスサノオに腹を立てて我慢しきれずに、岩戸に隠れてしまいました。岩戸の中は熱く、いつまでも光が充滿し、耐えがたい状態でした。私は、弟に寛大でした。優しすぎました。乱暴で自分勝手に、大きくなったのに母恋しい恋しいと泣きわめき、まわりの神々の迷惑な感じがどうでもいいと思っっている弟なんかどうなってもいいと思っっていました。岩戸に隠れてもう数年が経ちました。時間が経つと、気持ちが変わるんですね。弟のスサノオの気持ちも分かる。でも許す事ができません。私だって、母のイザナミが黄泉の国に行ってしまったことで、どれほど寂しかったか。私は他の神々には一切そのことを伝えず、歯をくいしばって頑張っていました。あの弟はあまりにも自分勝手に、自分のことしか考えない。なんて弱くて乱暴で、腹立たしいのでしよう。

最近では、あの腹立たしい弟が愛おしくなる事があります。もっと優しくしてあげたら良かった。私は、ほっておいたということは、自分が優しいと思っっていた。本当は無視していたのかもわかりません。実は私が完璧すぎて、あんなやつと思っつて無視し続けていました。今、この孤独の世界の岩戸の中で、私は誰からも注目されず無視されている状態。もういや、助けて。一人ぼっちはもうたくさん。スサノオよ。会いたい。スサノオが愛おしい。馬鹿な。私は孤独の中で気が狂ったに違いない。あの乱暴者のスサノオを愛おしいなんて、とんでもない…揺れる。

いえ、許す事ができません。彼が直接手をついて、お姉様悪かった、あの宇氣比の事件も私が間違っていましたと、誤ってくれたら許すかもわからない。いや、なんで、こんな気持ちになるのだろう。私は悪くない。弟が悪いんだ。

アマテラスは、ご自分の炎で自分を焼き焦がしました。

万の神々も何をしているんだらう。こんなに私は悩んでいるのに。誰も、私をアマテラス様、どうぞ御機嫌を直して出て来てくださいとなぜ言わないんだらう。

そんなときに、鶏の音が聞こえました。懐かしい長鳴鳥の声でした。私はその声を聞いた時に、身も心も踊り、まわりを照らしました。それなのに、恩知らずめ、誰も私の事を無視して、私の事を忘れ去って、私をほったらかしにして…。

また数年が経ちました。アマテラスはいつも同じことを繰り返し繰り返し悩んでいました。突然外で笑い声がありました。懐かしい神々の声がありました。

優れた知力をもったオモイカネノミコトよ、助けて、ここから出して。ああ、あの声は、アメノコヤネだ。アメノコヤネよ。私をここから出して。アメノウズメノミコトの踊りに違いない。ワイワイ囃し立てるのは、彼女の踊りを、みんなが喜んでるに違いない。

その国の  
子ども達が  
その国の神話を、  
十二、三歳までに  
学ばなかったら  
その国は  
滅びるだろう

でも待てよ、私がない世界でこんな騒ぎが起こるのは、きっと私より優れた神が降りてきたに違いない。どうしよう。私は自分の正しさにこだわり、がんこになってしまった。

我が神々よ。私の大好きな八百万の神々よ。どうぞ私を岩戸から救い出して下さい。

アマテラスは悲しみのあまり、気が狂いそうになりました。それから、数年経った後、アマテラスは、そつと岩戸を開けました。

「おお、わが君、アマテラス様、やっとお出になって下さり、本当に誠にありがとうございます。」と私をいつも支えてくれた、タヂカラオが私の手をひっぱり、私を岩戸から助け出してくれました。

そこには、注連縄しめなわがあり、そして、祝詞を拝む神々の顔が、私の気持ちを安心させました。私より優れた神々がお出になったとおもったのに、ああ、私を待っていたのだと気付いた時に、私は無上の喜びを感じました。

「おおアマテラスオオミカミ様、私たちはどれほど貴方をお待ちしていたかわかりません。」

アメノコヤネも、オモイカネノミコトも、タヂカラオも、アメノウズメも私の顔を見て、大粒の涙をこぼしながら駆け寄ってきました。

ああ神様、私はなんて幸せなんだろう。これからは、自分の気持ちに左右されずに、いつまでも神々やすべての者たちに、光を与えることを誓います。どうぞ、私の邪よこしまな考えをお許しください。

アマテラスは岩戸からお出になり、新しい再生をされました。

そのおかげで、私たちは、いつでもどこでも朝になるとアマテラスがほほ笑み元気を与えてくれます。

光は言葉。光は愛。光は感謝。

アマテラス様ありがとうございます。

三重県の伊勢神宮に、今アマテラスの霊たまは御鎮座されています。そして、別の霊たまが東京の天皇家の皇居に御鎮座されています。そして、あなたの心にも、ちゃんと御鎮座されています。

日本の人々がお正月に、初日の出を富士山に登って拝むのも、岩戸からお出になったアマテラスの記憶が、そうさせるのかもわかりません。

K